（例）

ニ．藻　場

対象事業実施区域周辺海域の藻場については、「第４回自然環境保全基礎調査」（平成６年、環境庁）によれば、測線①と②付近に藻場があり、海藻種は測線①がワカメ、マクサ（テングサ）、アカモク、アナアオサで、測線②がアナアオサ、アカモクの形成が報告されている。また、平成10年に川之江市建設部港湾課（「川之江西部臨海土地造成計画調査」）が行った藻場調査では、大江岸壁及び川之江岸壁における測線での潜水調査において、藻場が形成されている状況は確認されていない。

今回の調査結果は、以下のとおりである。

〔自然環境保全基礎調査で藻場の存在が確認された海域〕

測線①では距岸約20m付近からアナアオサが生育（被度１、表５－４３参照）し、距岸約40mから約70mのゴロ石上に密に生育していた。ゴロ石中の転石にはマクサ（テングサ）が多く、ヒジキ、タマハハキモク等のホンダワラ類が所々に生育していた。距岸約70mからは砂底となり海藻の生育はなく、距岸約120mでは所々の転石上にアナアオサが多く、フクロノリ、ムカデノリ、カバノリ、イギスが生育していた。

また、海岸に沿って設けられている消波堤の周囲にはアカモクが繁茂し（被度３～４）、タマハハキモクが混在し（被度＋～１）、その下にはアナアオサが多く（被度３）生育していた。測線①付近は、アナアオサ場とガラモ場（アカモク、タマハハキモク）があり、その中にマクサ（テングサ）、ムカデノリ、カバノリが生育する藻場を形成していた。

測線②では、距岸約20mまでのゴロ石底にアナアオサが繁茂し（被度５）、所々の転石にはアナアオサが優占（被度４）するが、マクサが多く（被度２～３）、ツノマタ、ムカデノリ、フダラクが生育していた。　距岸約20mより沖では砂底で、海底に浮遊するアナアオサが所々で観察された。測線②では、距岸約20mまでがアオサ場であった。

〔本事業実施区域の周辺海域〕

大江岸壁付近には平成10年の調査同様、砂底あるいは砂泥底で藻場はなく、護岸もしくは護岸付近に海藻が生育していた程度であり、藻場の形成は確認されなかった。

地域①（大江３号防潮堤）では、潮下帯の根固め捨石上にワカメやアナアオサ等の生育がみられたが、その沖の砂底上には海藻の生育はなく、藻場の形成は確認されなかった。

地域②（大江５号防潮堤）では、護岸にワカメとフクロノリ等の生育がみられたが、砂泥底上には海藻の生育はなく、藻場の形成は確認されなかった。

資料：富郷ダム工業用水取水設備計画に係る環境影響評価書　平成13年３月　大王製紙㈱・丸住製紙㈱